

# シラバス 技術・家庭科【技術分野】

教科名	第1学年 技術・家庭科 技術分野	担当者	篠田 潤
-----	------------------	-----	------

## 【 学習到達目標 】

ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して、材料と加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる。

### ・ガイダンスについて

- ア 技術が生活の向上や産業の継承と発展に果たしている役割について考えること。
- イ 技術の進展と環境との関係について考えること。

### ・材料と加工法について

- ア 材料の特徴と利用方法を知ること。
- イ 材料に適した加工法を知り、工具や機器を安全に使用できること。
- ウ 材料と加工に関する技術の適切な評価・活用について考えること。

### ・材料と加工に関する技術を利用した製作品の設計・製作について

- ア 使用目的や使用条件に即した機能と構造について考えること。
- イ 構想の表示方法を知り、製作図をかくことができること。
- ウ 部品加工、組立て及び仕上げができること。

## 【 学習方法やポイント 】

- ・その時間の学習のねらい(到達目標)や課題をしっかりとって授業に取り組む。
- ・学習内容に関心をもち進んで発言・発表にも取り組む。
- ・製作する作品は、自分の生活の中で役に立つものをつくる。
- ・自分の生活や作品について、自分なりに工夫する。
- ・実習前の説明はしっかり聞き、わからないことがあれば説明後に必ず質問する。
- ・技能面では1つ1つの工程を丁寧に行う。
- ・提出物は期限を守って完成させ提出する。
- ・他の人の作品にも関心をもち、お互いに評価し合う。

## 【 年間学習計画表 】

学期	単元・題材名	主な学習内容	学習のねらい
1 学 期	ガイダンス  製作品を丈夫にする 方法を知る 製作品の設計製作①	・技術は夢をかなえるためにある  (実習) ブリッジコンテスト ・製作品を丈夫にする方法を知る	・教科書を参考に、身の回りの技術や技術の発達、技術者、製品の誕生、技術と環境などについて調べ関心を高める。  ・製作に必要な図の描き方を知り、構想を基に等角図やキャビネット図などを用いて製作に必要な図を描く。

	<p>材料と加工法</p> <p>製作品の設計製作②</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製作に必要な図を知ろう</li> <li>・図面に寸法を記入しよう</li> <li>・構想した製作品を図を表そう (実習)</li> <li>1. 等角図</li> <li>2. 寸法記入</li> <li>・材料と加工に関する技術について知ろう</li> <li>・材料の特徴を知ろう</li> <li>・材料に適した加工法</li> <li>・作業手順を考えて製作しよう (1-2期)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設計の手順を知る。</li> <li>・材料とは何かを知る。</li> <li>・身の回りの製品に使われている材料を加工する技術を知る。</li> <li>・材料の基本的な特徴を調べ、材料の特徴を生かした利用方法を知る。</li> <li>・材料と目的とする加工に適した工具や機器を選択できる。</li> <li>・製作の作業手順を知り、材料と加工法に適した工具や機器を安全に使用しながら、適切に製作できる。</li> </ul>
2 学 期	<p>製作品の設計製作③</p> <p>材料と加工に関する技術の評価・活用</p>	<p>(実習)</p> <p>マルチラックの製作</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・完成した製作品を評価しよう</li> <li>・材料と加工に関する技術を未来に生かそう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・完成した製作品を評価の観点に沿って評価できる。</li> <li>・次のものづくりへの課題を考えることができる。</li> <li>・材料と加工に関する技術について、環境的・経済的、社会的側面から評価できる。</li> <li>・材料と加工に関する技術について、自分なりの活用方法を考えることができる。</li> </ul>

#### 【評価について】

##### ・知識・技能

実際の生活の場面で必要とされる基礎的な技術・知識が身に付いたかどうかを評価します。

主に、学習課程における知識・技能の習熟状況、完成した作品、定期テストにより多面的に評価します。

##### ・思考・判断・表現

習得した知識や技術を積極的に活用し、生活を工夫したり創造したりする能力を評価します。

主に、学習課程における思考・判断・表現の習熟状況、作品の提出や定期テストにより多面的に評価します。

##### ・主体的に学習に取り組む態度

積極的に取り組む意欲や態度などを重視して評価します。

主に作業や実習、毎時間の学習への取組状況、レポート、「知識・技能」、「思考・判断・表現」の評価項目から評価します。